

RPJ News

2016年 3月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒115-0045 東京都北区赤羽2-45-8 ファーストビル赤羽205

TEL/FAX 03-5939-9603

毎月1回発行

E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* Toronto ACT セミナーツアー2016 のお知らせ

協会トロント ACT 研修セミナーツアー担当

(社福)町にくらす会 志井田 美幸

* 2015 年度事業決算報告

事務局

* イタリア・アレツォ県ヴァルディキアーナ地域研修に関する報告(1)

事務局

* 事務局からのお知らせ

(1) ヴィレッジセミナー開催延期のお知らせ

(2) リフレッシュセミナーに関するお知らせ

* Toronto ACT セミナーツアー 2016 のお知らせ

協会トロント ACT 研修セミナーツアー担当

(社福)町にくらす会 志井田 美幸

今年も Toronto ACT セミナーツアーの参加者募集のお声掛けをする時期になりました。2003年の11月に第1回目のセミナーツアーを開始してから早いもので、2016年の今年で11回目になります。昨年度のセミナーから、多職種の専門家からなる ACT チームから精神科医、ソーシャルワーカー、看護師、OT だけではなく、チームの薬剤師から使用している代表的な薬に関する実践の話や、危機介入時の対応方法についてモデル体験するなどさらに充実した研修メニューになりました。今年のセミナーも、これまでの研修内容を振り返るとともに「Toronto で、生活する日本人(精神障がい者)の生活支援」という新メニューを予定しております。

1960年代にアメリカのマディソンで ACT が開発されて以来、50 余年が過ぎていきます。ACT の広がりを見れば世界的に見ると、1990 年代初期にニュージーランドで、1999 年にカナダ州政府のフルサポートの、2000 年には日本で、2007 年には南アフリカで、2010 年には中国で ACT が開発されました。また、1989 年にはヨーロッパでは、次世代 ACT として「Flexible Assertive Community Treatment (FACT)」「Resource ACT (RACT)」やドイツでは「Therapeutic ACT (TACT)」が開発されました。25 年にわたる ACT 成果についてアメリカの Burns ら(2007)の研究によると、74%入院日数の減少、67%住宅安定性を、58%生活の質の改善を、88%以上が対象者の満足度を示しているとされています。

カナダでは、ACT への資金制度、成果として入院日数の減少や対象者の満足度についてアメリカのそれと類似しています。1999 年に 59 チームが創設され、6 年後の 2005 年には、89 チームの ACT が全カナダに拡大しま



ACT チーム事務所の入るビル



ウエンディー所長とスタッフ



ACT チームが所属する
マウント・サイナイ病院

した。

日本では精神保健医療福祉の改革ビジョンが 2004 年に謳われ「入院医療中心から地域生活中心へ」というその基本的な方策を推し進めるために、国民各層の意識の変革や、立ち後れた精神保健医療福祉体系の再編と基盤強化がこれまでの 10 年間で進められました。平均在院日数が減少し、地域では就労系の事業所が増えています。厚生労働省の統計によると、2013(平成 24)年の雇用障害者数および実雇用率はともに過去最高を更新し、さらに 2018 年 4 月からは障害者手帳を持つ精神障害者の雇用が義務づけられます。我々現場にいる者は、少しではありますが「良い方向に前進していること」を実感しています。一方で、従来の医療による治療や福祉による支援では、地域での継続した生活が立ち行かない、未治療者、治療中断者、ひきこもりなど就労系の事業所を利用できない、重症で慢性の精神障がい者に向けて、ACT はまだ制度化に至っていませんが、諸外国の成果に似た成果を出している ACT チームが日本にも点在しています。医療型として、病院または診療所の訪問診療もしくは訪問看護ステーションで、精神保健福祉センターが、診療報酬を財源として、また福祉型として、福祉施設が障がい福祉サービスを行い、地域の医療機関の協力を得て、障がい福祉サービスの報酬費や補助金など様々な制度をかき集めて財源として ACT を実践しています。

重症慢性精神障がい者が住み慣れた地域(町)で継続してくらして行けるように、多職種の専門家で構成するチームが、地域において 24 時間、365 日、時と場所を問わずに広範囲のサービスを提供するカナダのケースマネジメントの実践「Assertive Community Treatment =ACT(アクト)」を視る研修に参加してみませんか？

※トロント ACT 視察研修ツアー2016 の概要

日程:2016 年 9 月 18 日(日)~25 日(日)の間の 7 日間

参加費: ¥330,000(予定)

募集人員:8 名程度

募集開始は本紙とホームページで公開します。

* 2015 年度(平成 27 年度)事業決算報告

事務局

平成 27 年度(平成 27 年 1 月 1 日~12 月 31 日)が終了しました。事業決算に関し、監査が終了し所管官庁への報告も完了しましたので、会員の皆様に報告させていただきます。

1. 事業の成果

今年度の本法人事業は、海外セミナーに於いて精神保健福祉先進国の実情を参加者に体験していただき、リフレッシュとエンパワメントに貢献でき、更に日本の精神保健の向上に寄与した。更に、国内セミナーの開催に於いて、学びあい語り合える機会を提供し、リフレッシュとエンパワメントを考えた活動を助長することにより、精神保健福祉の向上を図ることができた。

2. 特定非営利活動に係る事業

- (1)カナダ・トロント ACT 視察研修ツアーの実施 受益対象者 6 名
- (2)イタリア地域精神保健視察研修ツアーの実施 受益対象者 12 名



Mt. サイナイ病院 マバ理事長



クラブハウス「プロGRESS・プレイス」



元精神病院跡地にある精神保健センター「オンタリオショアーズ」と精神病院時代の歴史案内(下)



- (3) 精神保健福祉国際セミナー「トロント ACT チームの活動」の実施 受益対象者 80 名
 (4) 精神保健福祉国際セミナー「イタリア・アレツォの地域精神保健」の実施 受益対象者 500 名
 (5) 精神保健福祉国際セミナー「イタリア・ヴェローナの地域精神保健」の実施 受益対象者 500 名
 (6) リフレッシュセミナー in 尾道 2015 の実施 受益対象者 200 名

3. 活動計算書

科 目	金 額	
	単 独	計
I 経常収益		
1.会費	872,000	
2.受取寄付金	100,750	
3.事業収益	8,382,750	
4.受取利息	153	
経常収益計		9,355,653
II 経常経費		
1.事業費		
(1)人件費	19,000	
(2)会議費	100,151	
(3)旅費交通費	5,813,115	
(4)印刷製本代	127,824	
(5)研修費	2,026,072	
(6)雑費	163,134	
事業費計	8,249,296	
2.管理費		
(1)人件費	161,000	
(2)会議費	38,189	
(3)旅費交通費	223,320	
(4)通信運搬費	316,238	
(5)地代家賃	1,172,568	
(6)水道光熱費	64,394	
(7)消耗品費	81,123	
(8)支払手数料	9,226	
(9)雑費	106,951	
管理費計	2,173,009	
管理費計		10,422,305
当期経常増減額		▲1,066,652
前期繰越正味財産額		688,681
次期繰越正味財産額		▲377,971

4. 平成 27 年度事業総括

本年度の海外研修事業は、ヴィレッジ研修が参加希望者不足のため催行中止となりトロントとイタリア、2 回の実施となった。また海外講師招聘による国内研修事業において、企画時点の研修受入れ機関が実際は受入中止になる等の事態が数件あり歳入不足になった。実施した海外研修事業は概ね収支拮抗した結果であったが、参加者にご満足いただけたぶん海外研修事業は十分成果が得られたと考える。また国内研修事業も、トロントのウエンディー先生、アレツォのダルコ先生、ヴェローナのブルチ先生 3 先生のセミナーとも国内の精神保健分野の関係の皆さまに大きな贈り物ができたと感じている。なかなか海外の精神保健福祉先進国の状況をご自身の目で見るとチャンスに恵まれない方々にとって、良い情報提供が出来たと考える。そしてそれらの情報が明日の日本の精神保健発展の一助になれば協会事業の意味が生まれることと思う。最終赤字であるということは、まだまだ業界での認知度が不足しているのだろう。次年度は情報提供を加速させ業績回復を目指す。

会員の皆様のご協力が不可欠でございますので、是非宜しくお願い申し上げます。

* イタリア・アレツォ県ヴァルディキアーナ地域研修に関する報告(1)

事務局

昨年 11 月のイタリア研修ツアーの実施報告は 11 月号でさせていただきましたが、今回はヴァルディキアーナ地域の研修について触れてみたいと思います。

ヴァルディキアーナ地域の研修は、2012 年第 7 回の研修ツアーから取り入れた場所です。取り入れた理由は、ダルコ先生を最初に日本にお呼びした 2012 年 4 月のダルコ先生の発表資料に遡ります。彼はヴァルディキアーナ(コルトーナ)精神保健センターの長として赴任していた時期に、人口 48,000 人の地域で実験的なモデル事業を実施したのです。資料では、①一般医の診療所訪問、②一般医同行在宅診療、③共同治療の場合のモニタリンググループ、④一般医との連携による研修、⑤救急診療所・救急病院医師による医療ボランティアスタッフ、と表現されています。そしてその時のセミナーでダルコ先生は、広い地域の中でセンター職員だけで対応するのは不可能であり、更に冬季には雪で孤立してしまう地区など困難な状況であったことや、一般医の活用を思いつき、一般医への精神障害に対する研修や一緒に患者宅を訪問するなどの施策を講じ、モデル事業といえる結果を得ることが出来たと熱く語られたのです。セミナーが終わった後、ダルコ先生に次回イタリアに訪問するときは、是非そのヴァルディキアーナを見せてください。とお願いし訪問が実現しました。

2015 年でヴァルディキアーナ地域の訪問は 4 回を数えました。最初の年から訪れた後は「素晴らしい活動の話が聞けた」「すごい活動なんだ」と思いましたが、2 度 3 度 4 度と回数を重ねるたび「前回は何だったんだろう。日本からの訪問者を本気では受け入れてなかったのかな？(2012-3 年ご参加の皆様申し訳ありません)」と感じるくらい奥の深い活動を隅から隅まで丁寧に説明し、視察させていただきました。そこで今回は以前にご参加いただいた方への報告を兼ねて、2015 年ヴァルディキアーナの地域精神保健を報告させていただきます。

イタリア中部にフィレンツェを州都とするトスカーナ州があり、フィレンツェから南東 60km 程にアレツォを県都とするアレツォ県があります。アレツォ県は 5 つの保健圏域に分かれており、アレツォ市から南に 23km 程のコルトーナ市を中心とした圏域がヴァルディキアーナ地域になります。ここには精神科救急サービスが 1 か所、地域の総合病院の中にあります。そして精神保健センターが 3 か所、それぞれ保健の家と称する複数の診療科を持つ医療センターの中にあります。

次号に続く

* 事務局からのお知らせ

(1)2016 年度 ヴィレッジセミナー開催延期のお知らせ

4 月 25 日から予定しておりましたヴィレッジセミナーは参加希望者不足のため催行を延期させていただきます。お申込みいただきました皆様には大変申し訳ございません。延期の日程は確定次第、本紙とホームページ、更に今回ご希望された方々には個別にご連絡させていただきますので、再度のご検討宜しくお祈いします。

(2)リフレッシュセミナーに関するお知らせ

リフレッシュセミナーのご案内は 4 月号となりますので、暫くお待ちください。

開催予定日は 6 月 18 日(土)19 日(日) で変更はございません。

セミナー内容は、リフレッシュセミナーの原点回帰を検討中です。



—編集後記—

4 月を目前に桜が開花し春風が舞い、通勤の多くの若人もファッションブルで華を感じる日々です。皆様の地域は如何でしょうか？皆様ご自身もカミングアウトするような気持ちでファッションブルな春の風を吹かせてみたら如何でしょうか・・・良いことばかりではなく大量の花粉も舞っておりますので、マスクも必要かもしれませんね！

(Mamoru.niki)

〒115-0045 北区赤羽2-45-8ファーストビス赤羽205 TEL/FAX03-5939-9603